

【参考資料】

一般乗合旅客自動車事業

(1) 上限運賃の平均改定率

定期外	定期			合 計
	通勤	通学	計	
7.6%	8.0%	8.0%	8.0%	7.8%

(2) 現行上限運賃と申請上限運賃比較表

(単位：円)

	現行上限運賃	申請上限運賃
初乗り運賃	250	270
定期旅客運賃 (通勤定期 1 ヶ月)	10,050	10,850
定期旅客運賃 (通学定期 1 ヶ月)	8,700	9,400

(3) 代表的な区間運賃・1 ヶ月定期運賃

(単位：円)

		片道区間運賃		通勤定期運賃		通学定期運賃	
		現行運賃	申請 上限運賃	現行運賃	申請 上限運賃	現行運賃	申請 上限運賃
松山市駅	大街道	250	270	9,250	10,850	8,000	9,400
	松山環状線	250	270	7,670	9,010	7,020	8,250
松山市駅	総合運動 公園口	760	840	29,660	33,650	25,660	29,020
松山市駅	古川	380	460	14,470	18,490	12,530	16,010
松山市駅	椿前	480	520	18,490	20,900	16,010	18,100
松山市駅	久米	530	580	20,500	23,320	17,750	20,180
松山市駅	桑原	360	380	13,670	15,280	11,830	13,220
松山市駅	北伊予駅前	540	590	20,900	23,720	18,100	20,530
松山市駅	川内	990	1,180	38,210	45,640	32,980	36,070

(4) 輸送人員および収支状況

		輸送人員	収支
2024 年度		5,304 千人	△534,498 千円
2026 年度 (平年度予測)	改定前	5,243 千人	△882,554 千円
	改定後	5,188 千人	△785,124 千円

※2026 年度運賃改定後の輸送人員、収支状況は上限運賃での推計値です。

(5) これまでの経営合理化の状況及び今後の取り組み

バス運行にかかる燃料費の高騰に加え、車両の修理・修繕に必要な原材料価格の高騰により輸送経費が増大する中、運行計画の再検討や車両の使用期間延長などを通じて事業運営の最適化を図るとともに、運転士の待遇改善や全国交通系ICカードの導入拡大といったソフト・ハード両面の向上に努めてまいりました。

今後も収支の改善はもとより、高い環境性能・災害適応性を有するEV車両の導入、老朽化の進む車両の計画的な更新、持続可能な交通網の実現に寄与する自動運転バス事業への注力など、継続して安全輸送の確保と利便性の向上に努めてまいります。

(6) サービスの向上に関する今後の取り組み

2022年度より環境負荷の少ないEVバスの導入を随時進めており、現在（2026年1月現在）までに21両を導入、今後も年間10両を目標に順次導入予定であり、脱炭素社会の実現に向けて積極的に推進してまいります。また、2024年3月に松山空港リムジンバスで先駆けて導入したICOCA（全国交通系ICカード）を、2025年3月には、（一部路線をのぞき）全路線へと拡大、県外からのお客様にも大変好評を博しております。併せてサービスを開始したWEB定期券サービス「iCONPASS」につきましても、お持ちのモバイル端末上で操作が可能、窓口への来店不要でご利用いただける点で多くの支持を集めなど、これからもさらなるサービス向上への取り組みに努めてまいります。

以 上